

蘇れ海の幸 日本の資源管理最前線



①

政府は今後、漁業の管理を強める方針だ。狙いは魚介の資源を増やし、落ち込んだ漁獲や漁獲額を回復させること。ただ管理を強めるには困難も予想され、不安を持つ漁業関係者も多い。これからいかに困難に対処するかが大切だ。そして国内の漁業関係者が困難を乗り越え資源を守ってきた事例は既に多くある。その事例をひもとき、足並りに揃え、連載で各地の最前線をレポートする。

【不安①獲らなければ、増えるのか】
水産業者から見ると、漁獲を控えることは、収入を減らすことには限らない」という不安が生まれる。実際、海域や魚の種類で状況は違い、漁獲を抑えればいいとは限らない。ただ、漁獲を抑えれば資源が回復するという場面も多々ある。

【不安②獲らなければ、増えるのか】
水産業者から見ると、漁獲を控えることは、収入を減らすことには限らない」という不安が生まれる。実際、海域や魚の種類で状況は違い、漁獲を抑えればいいとは限らない。ただ、漁獲を抑えれば資源が回復するという場面も多々ある。

資源回復 多魚種に希望

各地で漁業者の努力結実

資源いる間に対策
留萌 ナマコ漁

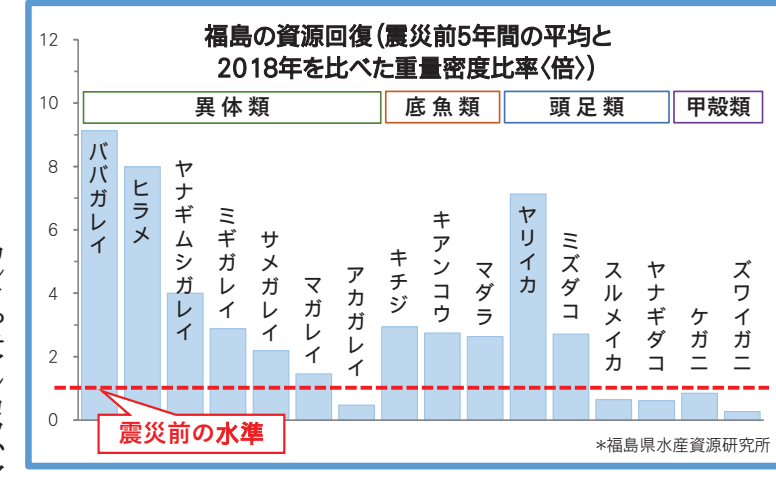
北海道では、2003年ごろから値上がりしたナマコが、乱獲で減ったとみられるケースが相次いだ。留萌市の新星マリン漁協では「隣のナマコが枯渇した。地元はナマコを子ども世代に残せるよう、資源のある間に動かななくては」（同漁協の米倉宏前留萌ナマコ部会長）と対策を始めた。漁業者らは、08年から稚内水産試験場やはこだてで未来大などの研究者と

留萌 ナマコ漁
留萌市では、2003年ごろから値上がりしたナマコが、乱獲で減ったとみられるケースが相次いだ。留萌市の新星マリン漁協では「隣のナマコが枯渇した。地元はナマコを子ども世代に残せるよう、資源のある間に動かななくては」（同漁協の米倉宏前留萌ナマコ部会長）と対策を始めた。漁業者らは、08年から稚内水産試験場やはこだてで未来大などの研究者と

留萌 ナマコ漁
留萌市では、2003年ごろから値上がりしたナマコが、乱獲で減ったとみられるケースが相次いだ。留萌市の新星マリン漁協では「隣のナマコが枯渇した。地元はナマコを子ども世代に残せるよう、資源のある間に動かななくては」（同漁協の米倉宏前留萌ナマコ部会長）と対策を始めた。漁業者らは、08年から稚内水産試験場やはこだてで未来大などの研究者と



タブレットを駆使する留萌の米倉氏



は、古くから漁業者同士がチームを組んで操業して公平に収入を分ける「プール制」を毎年、期間と海域を限定して行っている。漁船や網を共有すること、漁の「自分たちで海を守ろう」という意識も減った。安定。網が減って資源への打撃も減る。そんな和具周辺に1990年代、県の科学者が頻繁に出入りするようになり、近隣の漁村へ調査し、近隣の漁村へを放流。プール制の範

は、古くから漁業者同士がチームを組んで操業して公平に収入を分ける「プール制」を毎年、期間と海域を限定して行っている。漁船や網を共有すること、漁の「自分たちで海を守ろう」という意識も減った。安定。網が減って資源への打撃も減る。そんな和具周辺に1990年代、県の科学者が頻繁に出入りするようになり、近隣の漁村へ調査し、近隣の漁村へを放流。プール制の範

